

人の一生を支える学びと仕事で 女性のしなやかな感性を活かす教育

東京家政大学 / 東京家政大学短期大学部

Tokyo Kasei University

女性が自立するために 生まれた大学

女性の社会進出がなかなか進まず、先進国の中でもきわめて低いランクに留まってしまう日本。今「女性が輝く日本」をスローガンに掲げて様々な働き方改革を行い、女性が活躍できる社会の実現に向けて、ようやく本格的に歩み始めている。そんなわが国にあつて、女性のキャリア教育の先駆けとして、創立以来「自立して生きる女性」の育成を実践してきたのが東京家政大学だ。その歴史はまだ武家社会の慣習が色濃く残る明治初期にまで遡る。

校祖である渡邊辰五郎は、女子教育の第一人者として知られており、国会図書館がまとめた「近大日本の肖像」で、吉田松陰や福沢諭吉ら

とともに日本を代表する教育家として紹介されている。渡邊が東京家政大学の前身となる「和洋裁縫伝習所」を本郷湯島に設立したのは1881年(明治14年)。すでにその7年前には裁縫の教授を始めており、それまでは文字通り「手取り足取り」教えていた裁縫の教育に、「裁縫掛け図」という解説図を使用した二斉授業を行ったり、現在の「家庭科」の元となった教科書を執筆したりと、新しい教育手法を積極的に取り入れた人物であった。

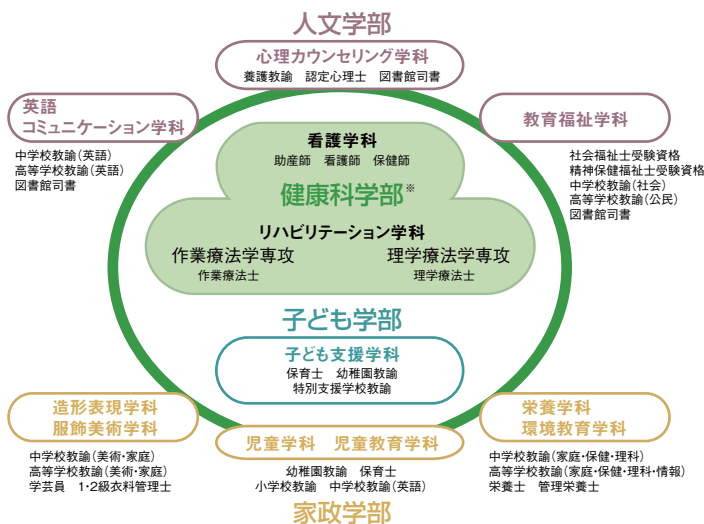
そんな渡邊が掲げたのが「自立して生きる女性」の育成だ。当時の世相は、相次ぐ戦争で一家の大黒柱を失い、生活に困窮してしまう女性が多々みられた。そうした状況に陥らないためには、女性が自ら人生を切り拓き、誰かに頼りきりになるので

はなく、必要が生じたときには自分で決断し道を選択できるようなにならなくてはいけない。それには高い専門性と教養を習得することが土台となる。創設者のこの想いこそ、現代まで受け継がれてきている同大学の建学の精神である「自主自律」の出発点にはかならない。

少子高齢社会で注目される リハビリテーション

「時代の要請に応え、専門性を備えた女性を育成すること」を教育理念としている東京家政大学は、これまで教育や保育、栄養、服飾、心理、福祉、看護といった専門分野でリーダーとなる人材を多数輩出してきた。そんな同大学が新たに育成しようとしているのが、作業療法士、

人の一生を支える学びと仕事の分野をカバーする学部・学科が揃う



*2018年4月改組 構想中 改組される学部・学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

女性のキャリア教育の先駆けとして、創立以来136年に亘って10万人以上の卒業生を輩出してきた東京家政大学。人の一生を支える学びの分野を揃え、女性のしなやかな感性を活かす仕事につながる教育を続けている。

取材・文 / 今野雅晴



(左)理学療法士と作業療法士の養成を行うリハビリテーション学科を2018年4月に設置することを構想中の狭山キャンパス。8万3000㎡と広大な敷地を誇る。
(上)作業療法士・理学療法士は、生活能力の向上と機能回復をサポートする、国家資格を持ったリハビリテーションの専門家。これからの日本を支える役割を担う。

理学療法士に代表されるリハビリテーションの専門家だ。

猛烈な勢いで少子高齢化が進んでいる日本は、2025年には65歳以上の高齢者が全人口の3割を超え、75歳以上の後期高齢者は5人に1人の割合になると予測されている。こうした状況が踏まえ、厚生労働省は従来からの疾病の治療・回復を主な目的に据えた「治す」という考え方から、生活の質を向上させることに焦点を当てた「自分らしく生活する」という考え方に舵を切り始めている。そのカギを握っているのが、リハビリテーションの充実なのである。作業療法、理学療法といったリハビリテーションは、病気やケガなどによって失われてしまった機能を回復させるだけでなく、低下してしまった生活の質(QOL: Quality of Life)を高めることができ、健康上問題ない状況で日常生活を送ることができる「健康寿命」を伸ばすという、重要な役割を担うことが期待されている。

狭山キャンパスに 健康科学部を構想中

東京家政大学は狭山キャンパスにある看護学部を、2018年に健康科学部へと改組し、看護学科に加え

てリハビリテーション学科を設置し、作業療法士と理学療法士を育成することを構想している。一つの学部の中に看護とリハビリを置くことで、専門領域を越えて、お互いが連携・補完しながら学んでいくことができ、環境を整える。都心に近く、豊かな自然に囲まれた狭山キャンパスには子ども学部も置かれており、保育士、幼稚園教諭も養成。子どもクリニックや保育所を備え、地域住民にも開かれた場所だ。ここに新たにリハビリテーションの分野が加わることで、キャンパス全体が、これからの社会のありかたに対応できる人材の教育と研究の拠点となっていくことになる。

女性のしなやかな感性で 人の一生を支える

東京家政大学には、現在、専門性の高い知識や技術が身につく4学部11学科と短期大学部2学科が置かれており、いずれも人の一生を支える学びと研究の分野である。すでに同学の卒業生は10万人を超えているが、その多くが自分の専門性と、女性のしなやかな感性を活かし、自立して生きる女性として、人の一生に関わる仕事で活躍している。創設者の渡邊辰五郎が唱えた「新しい時代に即応した学芸技能に秀でた女性の育成」という志は、136年を経た今も脈々と受け継がれている。

Information

東京家政大学／東京家政大学短期大学部



1881年設立の「和洋裁縫伝習所」を前身として1949年創立。家政学部(児童学科・児童教育学科・栄養学科・環境教育学科・服飾美術学科・造形表現学科)、人文学部(英語コミュニケーション学科・心理カウンセリング学科・教育福祉学科)、子ども学部(子ども支援学科)、看護学部(看護学科)、短期大学部(保育科・栄養科)を持つ。2018年4月の開設にむけて健康科学部(看護学科・リハビリテーション学科)を構想中。

●DATA

東京都板橋区加賀1-18-1／埼玉県狭山市稲荷山2-15-1
TEL 03-3961-5228 (アドミッションセンター)
URL <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>